

# 福山市立福山中学校第1学年 英語科学習指導案

## 単元名 : Lesson7 Sports for Everyone

日時・場所 平成29年11月17日(金) 第2校時 南棟4F 教室  
学年・学級 1学年3組(男子19名 女子21名 計40名)

### 単元について

本単元は、身近な人について紹介したり、身近な物事についての決まりやルールを説明したりする力を育成することに適したものである。本単元では、車椅子バスケットボールやゴールボールなど、パラリンピックの競技にもなっているスポーツが話題として取り上げられている。本文では、それらのスポーツに携わる人物や競技上のルールが紹介される。その内容を理解することを通して、障がいの有無に関わらず共に豊かな生活を送るための社会の在り方を学ぶこともできると考えられる。

言語材料としては、助動詞の **can** が「能力」と「許可」の両方の意味で扱われる。いずれもできることや決まりを紹介したりする場面で用いられる重要な文法事項であると言える。

本単元は、中学校学習指導要領「話すこと」の「(イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」の指導に適している。

また、「福山中学校 CAN-DO リスト」の「話すこと：前もって発話することを準備した上で、自分自身の日常生活に関わることを発表することができる。」ように指導していく単元である。

### 生徒観

本校は韓国とオーストラリアに提携校を持ち、交流を行う機会もあるため、英語を使ってコミュニケーションを行うことに対して必要性や楽しさを感じている生徒が多い。

本校の1年生は、5月より自己紹介や自分の日常生活について1分間話し続けるという活動に取り組んでおり、即興的に決められたテーマについて話すことに慣れてきている。

### 調査結果からみる課題

2学期始めに、本学級に対して次のようなパフォーマンステストを行った。

【30秒間で自己紹介をし、その内容に関する2つの質問に答えなさい】

- ・30秒間の平均発話語数は36語であった。
- ・質問は①Are you~/ Do you~/など Yes/No で答えるものと②What/When/Who~/など Yes/No で答えられないものの2種類を尋ねた。以下は解答類型である。

#### 【①Are you~/ Do you~/】

正答	69.5%
準正答	・ Yes. / No.のみで答えている。 7.9%
誤答	・ Are you~/? に対して Yes, I <u>do</u> . で答えている。 ・ Do you~/? に対して Yes, I <u>am</u> . で答えている。 ・ Yes./No.で答えていない。 ・ 回答の途中で無言になる。 18.4%
無回答	5.2%

#### 【②What/When/Who~/】

正答	76.2%
準正答	・ 単語単位で答えている。 5.3%
誤答	・ Yes./No.で答えている。 ・ be 動詞と一般動詞を併用している。 ・ その他【語の選択の誤り】 15.9%
無回答	2.6%

### 【課題となる力】

- ・流暢さはあるものの、話したい内容を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す力が不足している。
- ・即興的に質問された事柄に対して、正しく応答する力が不足している。

### 【指導上の課題】

- ・代名詞/代動詞を定着させるための口頭・筆記練習が不十分であった。
- ・言いたいことを整理して、順序よく話す練習が不十分であった。
- ・スピーチなどの後にその内容に対して質問したり、質問に答えたりする機会を十分設定できていなかった。

## 指導観

### 指導のポイント

基礎的・基本的な力を高めながら、生徒が目的や目標をもって主体的に他者とコミュニケーションを図ることができるような活動の設定

### 【指導の工夫】

- ①帯活動で、終末の表現活動につながる語彙、表現等を繰り返し練習し、定着させる。
- ②30秒～1分間テーマに沿って即興で話す活動を設定し、短時間で構成を組み立てる練習をさせる。
- ③繰り返しを求める、確認するなどの工夫によって、即興で聞かれた質問内容を正確に把握できるように練習させる。
- ④海外の生徒と交流する機会に恵まれている生徒にとって、必然性のある終末の言語活動を設定することで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を高める。
- ⑤表現したい内容に沿って、can以外の未習の助動詞についても弾力的に指導する。

## 単元の目標と評価規準

- (1) 自分の家族や日常生活での決まりについて紹介する。 (外国語表現の能力)
- (2) ペアワーク・グループ活動において間違うことを恐れず話す。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (3) 助動詞 can を用いた文の構造を理解する。 (言語や文化についての知識・理解)

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① ペアワーク・グループ活動において間違うことを恐れず話している。	① 自分の家族や日常生活での決まりについて紹介することができる。		① 助動詞 can を用いた文の構造を理解している。

## 本校で身に付けさせる 21 世紀型 “スキル&倫理観”

情報分析・整理力	★活用・表現力	課題発見・解決力
様々な事象を自分なりに解釈し、まとめることができる。	生活体験や既習事項から収集した情報を整理し、発表することができる。	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や、収集した情報などを根拠にして解決することができる。
協働	自他の尊重	チャレンジ精神
様々な集団の中で、自己の役割に気づいたり考えたりして、集団や人に関わろうとしている。	相手のよさを見つけながら、相手の考えや思いを理解しようとしている。	目的の達成に向けて、やりきろうとしている。

★本単元で身に付けさせる 21 世紀型スキル&倫理観の重点

## 単元の終末におけるパフォーマンス課題

○自分の家族や日常生活での決まりについて紹介し、聞き手の質問に答える。

— 条 件 —

- 家族と決まりについてそれぞれ 5 文以上で紹介する。
- アイコンタクト・声の大きさ・表情に注意し、聞き手を意識する。
- 紹介した内容についての質問に対して、即興で答える。

— 手 立 て —

- 家族紹介や日常生活の決まりを繰り返し聞いたり読んだりすることを通して、助動詞の使い方や紹介の仕方に十分慣れさせる。
- 準備した紹介文をくり返し練習することで、原稿に頼らず、聞き手を意識して堂々と発表できるようにする。
- 聞き取った内容について質問をしたり、その質問に答えたりする練習をすることで、即興的に受け答えをすることに慣れさせる。

— ルーブリック —      A 十分満足である      B 満足である      C 改善の余地がある

	原稿		スピーチ、質問への応答		
	正確さ	内容	態度	英語らしさ	即興的な応答
A	文法的な誤りが少ない。	様々な助動詞を適切に使い分けて、自分の家族や日常生活での決まりについて整理して紹介している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識して、アイコンタクトをしたり、十分な声量で話したりしている。</li> <li>・ジェスチャーや表情も豊かである。</li> </ul>	英語らしい発音やイントネーションで紹介しており、ミスがない。	即興的に聞かれた質問を理解し、相手の尋ねていることに正確に答えられる。
B	理解に支障のない誤りが 1～3 個ある。	助動詞を用いて、自分の家族や日常生活での決まりについて整理して紹介している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識して、アイコンタクトをしたり、十分な声量で話したりしている。</li> </ul>	英語らしい発音やイントネーションを意識して紹介しており、ミスはあっても聞き手の理解に支障をきたす範囲ではない。	即興的に聞かれた質問に対して、繰り返しを求めたりすることで、時間をかければ正確に答えられる。
C	文法的な誤りが 4 個以上あり、理解に支障をきたす。	自分の家族や日常生活での決まりについて紹介しているが、内容が整理されていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイコンタクトが乏しい。もしくは声量が不十分である。</li> </ul>	発音やイントネーションに誤りがあり、聞き手の理解に支障をきたす。	即興的に聞かれた質問に対して、繰り返し質問されても答えられない。または、関係ないことを答えている。

## 指導と評価の計画

次	学習内容	評価規準	評価方法
1	<p>○単元の目標を知り，見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリアの学校や家庭での生活を，写真などを通して知る。</li> <li>・既習の三人称単数現在を意識しながら，オーストラリアの生徒がホームステイに来たことを想定して家族紹介をする。</li> </ul>	ア①	活動の観察
	<p>○助動詞 <b>can</b>【能力】の意味・用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っているスポーツを挙げるなどして，本文の内容への関心を高める。</li> <li>・スポーツについてできるかどうか，尋ねたり答えたりする。</li> <li>・自分がどのようなスポーツができるか，紹介する。</li> <li>・ペアやグループのメンバーがどんなスポーツができるか紹介する。</li> </ul>	エ①	後日ペーパーテスト
2	<p>○Part 1：助動詞(<b>can/must</b>)を用いて，身近な人物を紹介する練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を聞いて，ポールの兄についてわかったことを伝え合う。</li> <li>・本文を読んで，内容を理解し，ポールの兄について紹介する。</li> <li>・本文をもとに自分の家族や友達について口頭で紹介する。</li> <li>・本文をもとに自分の家族や友達について紹介する文を書く。</li> </ul>	エ①	後日ペーパーテスト
3	<p>○Part 2：助動詞を含む疑問文を理解し，それに対して応答する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文に関連した体験を尋ねて，本文の内容への関心を高める。</li> <li>・本文を聞いたり読んだりして，内容を理解する。</li> <li>・Guess Who Game をグループでする。 (人や動物を一つ決める。聞き手は，その人や動物を推測するための質問をする。話し手は聞き手の質問に答える。)</li> <li>・Guess Who Game をクラスでする。</li> <li>・既習の <b>be</b> 動詞や一般動詞と助動詞の疑問文の共通点，相違点について確認する。</li> </ul>	エ①	後日ペーパーテスト
4	<p>○READ：助動詞 <b>can</b>【許可】の意味・用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボールやサッカーとの比較などから車いすバスケットボールとゴールボールの大まかなルールをつかむ。</li> <li>・本文を読んでルールを日本語でまとめる。</li> <li>・家や学校のルールを助動詞 <b>can/must</b> を使って表現する。</li> </ul>	エ①	後日ペーパーテスト
5 本時	<p>○適切な助動詞を用いて，家庭や学校などの身近なルールについて紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞の基本的な意味・決まりについて確認する。</li> <li>・助動詞を用いた疑問文を含む対話から，オーストラリアと日本の学校のルールの違いについて理解する。</li> <li>・日本の学校や家庭のルールを口頭で紹介する。</li> </ul>	イ①	後日スピーキングテスト
6	<p>○家族や家庭のルールを紹介する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の確認として，学校や家庭のルールをペアで口頭で紹介する。</li> <li>・条件やレイアウトを確認する。</li> <li>・レイアウトや進行度をチェックするため，お互いの作文を見合う時間を設ける。</li> <li>・共通する誤りなどについてフィードバックを与え，全体で共有する。</li> </ul>	イ①	生徒の作品 後日スピーキングテスト
7	<p>○パフォーマンステストに向けて，口頭で家族や日常生活のルールを口頭で紹介する練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手な紹介とは何かを考え，ルーブリックを元に確認する。</li> </ul>	ア①	活動の観察

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁に向かって個人で口頭練習を行う。</li> <li>・指名された生徒が口頭で発表をする。</li> <li>・ペアで口頭で家族やルールを紹介し合い、互いにもっと尋ねたい部分に対して質問をする。</li> <li>・質問が難しいときは質問BOXのヒントカードを参考にする。</li> <li>・パフォーマンステストの流れを確認する。</li> </ul>	イ①	後日スピーキングテスト
8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の家族や日常生活での決まりについて紹介し、聞き手の質問に答える。(スピーキングテスト)</li> <li>・家族と日常生活の決まりを紹介する。</li> <li>・ランダムに選ばれた生徒が質問をし、それに対する答えを発表した生徒が即興的に答える。</li> <li>・聞き手の生徒はメモをとったり、発表者に対するコメントを書いたりする。</li> <li>・振り返りをして、自己評価を書く。</li> </ul>	イ①	スピーキングテスト
後日	<p>&lt;ペーパーテスト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族について、できることを書いて紹介する問題</li> <li>・適切な場面を与えて、そこでしてよいこと、してはいけないことを書く問題</li> </ul>	エ①	ペーパーテスト

## 本時の学習

- |             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| (1) 本時の目標   | 適切な助動詞を用いて、家庭や学校などの身近なルールについて紹介する。 |
| (2) 観点別評価規準 | イ①自分の家族や日常生活での決まりについて紹介することができる。   |
| (3) 準備物     | タブレット端末、プロジェクター、ワークシート、タイマー        |
| (4) 学習の展開   |                                    |

学 習 活 動	指導上の留意点 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)
1 あいさつ  2 1min monologue [ 家庭や学校のルール ]	◇ 4人班を作って (speaker/listener/word counter/note taker)の役割で ◇前時のワークシートを元に、家庭や学校のルールを紹介する。 ◆T1 と T2 で観察して、単語のヒントを与えたりする。	
<b>Today's goal : 家庭や学校などの身近なルールについて紹介する。</b>		
3 表現方法の学習 (1) 文法の確認	◇Treasure Hunting(間違い探し)をする。間違いは前時の生徒の誤りから拾っておく。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I cannot my smartphone to school.</li> <li>・ I must do homework before dinner.</li> <li>・ I can play game for hour.</li> </ul> </div>	

<p>(2) クイズ 「オーストラリアの身近なルール」</p>	<p>◇助動詞 <b>can/must</b> の意味・用法についてペアで確認し、全体で共有する。 ◆ペアの考えを聞く機会を設定する。</p> <p>◇パワーポイントを利用して、視覚的支援をし、興味深く理解しやすいものにする。 ◆ペアと座席をつけて、相談しやすい雰囲気にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;クイズの例&gt; T1: Can Downlands students (in Australia) eat snacks during the lunch time? T2: Please guess. "Yes, they can." or "No, they can't." Ss: Yes, they can! T1: Right. But they mustn't eat them in their classrooms.</p> </div>	
<p>(3) 表現活動 「気に入ったルール」</p>	<p>◇クイズを通して知った日本とオーストラリアのルールの違いについて自己表現させることで、自己関連性を高める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;予想される生徒の発話&gt; ・ I like the rule 1. I want to eat snacks with my friends. ・ I don't like the rule 5. I want to take a bath every day.</p> </div>	
<p>4 身近なルール紹介 (1) ルールを絵や写真で表現</p>	<p>◇オーストラリアから来た生徒に説明ができるように、ルールの相違点に着目して表現させる。1min monologue のときに表現したルールで十分か、考えさせ、より相手を意識した細かい説明を考える。(クイズを通しての気づきから、ルールの違いについての考えを深めさせる。) ◆絵や写真にキーワードなどを書かせることで発表をしやすいとする。</p>	<p>イ① 自分の家族や日常生活での決まりについて紹介することができる。 (後日スピーキングテスト)</p>
<p>(2) 絵を活用した紹介</p>	<p>◇生徒の絵や写真をタブレットのカメラで撮り、全体に紹介し、英語でどのように表現するのが適切か確認させる。(T1) ◇必要があれば、辞書を使うように促す。(T2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;予想される生徒の発話&gt; S1: You mustn't snacks at school. T1: You mustn't eat snacks at school. Repeat. Ss: You mustn't eat snacks at school.</p> </div>	
<p>(3) ペアでの紹介活動 ・ 個人練習</p>	<p>◇絵やを見せながら話す課題を設定することで、アイコンタクトを意識させる。 ◆個人練習の際に机間指導をし、質問ができるようにする。(T1・T2 で分担して指導する)</p>	

<p>・ペア発表</p> <p>・全体発表</p> <p>5 本時の振り返り</p> <p>(1) 自己評価 ワークシート記入</p> <p>(2) 次回予告と宿題確認</p>	<p>◇発表のポイントを意識させる。また聞き手には <b>echoing</b> や <b>reaction</b> をさせる。(モデルを T1・T2 で見せる。)</p> <p>◇発表内容を板書する(T2)ことで、文法的な誤りなどを生徒自身に気付かせる。</p> <p>◇本時の授業を振り返り、目標が達成できたかどうか、改善点は何かを発表させる。</p> <p>◇まとめとして、互いの文化を尊重すべき点(ピアスやタトゥーなど)について、問いかける。</p>	
--	---	--

(5) 板書計画

本時の目標 : 家庭や学校などの身近なルールについて紹介する。

Friday  
November  
seventeenth  
sunny

- ①warm-up
- ②pair work
- ③Australia quiz
- ④family rule  
&  
school rule
- ⑤ふり返り

助動詞→動詞に意味を加える 【助動詞+動詞の原形】  
 can (~できる, してよい) I can play soccer well.  
 You can play soccer here.  
 must(~しなければならない) I must practice soccer hard.

【間違い探し】  
 You can't shoes in my house.  
 wear  
 You must clean classroom.  
 your